

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きがみられる。
先行きについては改善の動きがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲39.0と、前期比で8.1ポイント増加し、2期ぶりに改善した。
業種別では、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。
- 景況感の先行きD Iは▲11.4と、前回調査比で4.2ポイント増加し、2期連続改善した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は19.8%で、5期ぶりに減少した。
- 来期については、売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより改善する見通しである。
また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和5年1～3月期、「当期」：令和5年4～6月期、「来期(先行き)」：令和5年7～9月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲39.0となり、2期ぶりに改善した。前期比で8.1ポイント増加し、前年同期比では9.1ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲40.5)、非製造業(▲37.9)ともに2期ぶりに改善した。

〈景況感D Iの推移〉

	当 期 (R5.4-6)	前 期 (R5.1-3)	前年同期 (R4.4-6)
全 体	▲39.0	▲47.1	▲48.1
製 造 業	▲40.5	▲49.3	▲49.6
非製造業	▲37.9	▲45.4	▲47.1

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は10.0%（前回調査(R5.1-3月)比+0.8）、「悪い方向に向かう」とみる企業は21.4%（前回調査比▲3.5）だった。

先行きD Iは▲11.4（前回調査比+4.2）と、2期連続改善した。

〈来期の見通し〉

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R5.7-9)
全 体	10.0%	21.4%	▲11.4
製 造 業	11.2%	22.2%	▲11.0
非製造業	9.0%	20.8%	▲11.7

2 売上げについて

売上げD Iは▲14.8（前期比+12.2）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R5.4-6)	前 期 (R5.1-3)	前年同期 (R4.4-6)	来期見通し (R5.7-9)
全 体	▲14.8	▲27.0	▲20.3	▲11.3
製 造 業	▲14.4	▲29.3	▲20.8	▲9.3
非製造業	▲15.1	▲25.3	▲19.9	▲12.8

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲18.1（前期比+7.4）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業は当期の資金繰りD Iより改善し、非製造業は悪化する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R5.4-6)	前 期 (R5.1-3)	前年同期 (R4.4-6)	来期見通し (R5.7-9)
全 体	▲18.1	▲25.5	▲21.5	▲16.6
製 造 業	▲21.7	▲26.6	▲24.8	▲17.9
非製造業	▲15.3	▲24.6	▲19.1	▲15.5

4 採算について

採算D Iは▲26.7（前期比+9.7）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R5.4-6)	前 期 (R5.1-3)	前年同期 (R4.4-6)	来期見通し (R5.7-9)
全 体	▲26.7	▲36.4	▲35.7	▲21.1
製 造 業	▲28.4	▲37.6	▲40.2	▲21.1
非製造業	▲25.4	▲35.5	▲32.4	▲21.0

5 設備投資について

実施率は19.8%となり、5期ぶりに減少した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は2期ぶりに増加し、非製造業は2期ぶりに減少した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R5. 4-6)	前 期 (R5. 1-3)	前年同期 (R4. 4-6)	来期見通し (R5. 7-9)
全 体	19.8%	20.8%	19.5%	18.1%
製 造 業	25.0%	24.5%	22.6%	23.5%
非製造業	15.7%	18.0%	17.4%	14.0%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP13以降を御覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・半導体関連は市場全体が減産サイクルに入っており不況である。
- （輸送用機械器具）・大手メーカーからの受注は増加基調だが想定していた程ではなく景況感は普通である。
- （プラスチック製品）・今年に入ってから半導体関連の受注が減少傾向にあり不況である。
- （食料品製造）・売上高は回復しているが、原材料費が高騰しており、景況感は普通である。
- （印刷業）・受注はコロナ前の水準に回復しており、景況感は普通である。
- （百貨店）・消費が回復しており、好況である。
- （商店街）・観光客の消費は改善したが地元客の消費マインドは変わらず、景況感は普通である。
- （建設業）・大口の民間建設工事や不動産売買の案件があり、好況である。

【売上げ・採算】

- （電気機械器具）・中国向けのスマートフォン関連の受注が大きく落ち込んだことで、売上は減少した。
- （金属製品）・受注量はやや減少したが、価格転嫁により単価が上がり売上高はあまり変わらない。
- （食料品製造）・価格転嫁と利益率の高い商品への切り替えにより、採算性は良くなった。
- （印刷業）・売上は増えたが原材料価格も上がっており、採算性はほとんど変わらない。
- （スーパー）・客数、客単価ともに増加して売上高は増えた。
- （情報サービス業）・各種コストの上昇に対し価格転嫁が追い付かず、採算性は悪化した。

【今後の見通し】

- （一般機械器具）・半導体関連の回復は来年以降とみられ、当面は悪い方向に向かう。
- （輸送用機械器具）・自動車メーカーの生産回復から受注増加が予想され、良い方向に向かう。
- （食料品製造）・売上は回復基調だが原材料費の高騰が続くと思われ、どちらともいえない。
- （鉄鉄铸件）・見通しは不透明で、どちらともいえない。
- （商店街）・行動制限緩和の影響やイベントの再開により、良い方向に向かうとみている。
- （旅行業）・観光需要の回復により予約も増えており、良い方向に向かうとみている。
- （建設業）・現状とさほど変わらないとみており、どちらともいえない。